

令和2年5月教育長定例記者会見

【質疑応答】

≪県立学校における新型コロナウイルス感染症対策に係る広島県教育委員会の考え方について
【5月15日】≫

朝日新聞 2点、お伺いします。まず、〔考え方の②に〕6月1日からの学校再開に向けて判断する、というところがあるんですが、これは、いつ頃までの状況を見て、だいたい具体的には、いつ頃を目安に判断される予定でしょうか。

教育長 まず、学校を再開するに当たりまして、子供の健康と安全を第一に考えまして、その上で子供たちの学習の機会を確保する必要があると考えております。〔5月〕18日（月）からの自主登校での児童生徒の様子を見たり、あるいは学校の感染拡大防止対策の状況を見ながら、国の動向、文〔部〕科〔学〕省からの通知も含めまして、今後の県内の感染状況などを勘案しつつ、慎重に判断していく必要があると思っております。考え方にもお示ししておりますけれども、地域における感染状況、それから自主登校における感染症対策、それから出席者の状況などを踏まえまして、なるべく早い段階で〔判断を〕お示しできるような検討したいと思っておりますけれども、おおむね1週間程度の様子を見て、判断していきたいと思っております。

朝日新聞 1週間程度というのは、〔5月〕18日から1週間の状況を見た上で、その後、〔5月〕25日くらいに判断を示されるという理解でよろしいでしょうか。

教育長 ではなくて、1週間以内、来週のどこかで〔判断していきたいと思います〕。やはり早く、様々な形でデジジョンした方が良いと思っておりますので。ただ、これも感染状況によりまますので、またちょっとうなぎ上りになってしまったりすると、少し状況が変わるとは思いますが、できれば来週中に、何らかの方針は打ちたいなと思っております。

朝日新聞 あと1点、再開後のことで、〔考え方の②に〕分散登校と、従来からおっしゃっているICTを活用した学習機会の確保、というのがありますが、県立学校について、ICTの状況というか、各学校で違いますけれども、〔ICT機器が〕そろっていない学校の学習機会の確保については、何らか具体的に検討されていることはございますでしょうか。

教育長 まずは、せっかくICTというか、G Suiteを配備しております、どの学校もそういう意味では少なくとも健康観察であるとか、あるいは双方向の授業ではなくても、一方向の形の教材あるいは授業の提供とかをやっております。なので、それが頻度であるとか形というのはそれぞれなんですけれども、どの学校も何らかそこを広げていってもらいたいなと思っております。それだけではないと思うんですけれども、分散登校でももちろん〔感染リスクを〕抑えつつ、〔授業の〕内容を押さえたり、あるいは質問に答えたりということもあるんですけれども、それだけではなくて、子供の学びを止めないということをやっていければと思っております。ちなみに、4月30日と5月1日の臨時議会で、ICT〔機器〕を持っていない子供に関して〔貸出用機器を〕措置するための補正予算は、可決したわけですけれども、なかなか市中にモノがない。といっても、学校教育情報化推進課の方で、一所懸命集めておりますので、例えば学校で動画を一所懸命アップしているような学校に早く〔調達した貸出用機器を〕回すとか、様々な形で整えていきたいなと思っております。あるいは、分散登校中で密にならなければ、学校のパソコンルームに来ていただいて、学習をすることはやぶさかではありませんので、そこはどんどん進めていきたいなと思っております。

H T V 保護者の関心事といえ、休みが長引いてしまったということで、休暇であるとか学校

行事であるとかの見直しなんかも、現場としては非常に苦しい決断だと思うんですが、そういったことも必要になってくると思うんですが、その辺りはいかがでしょうか。

教育長 今、学校とともに今後の感染状況を見ていながら、学校行事の精選、これも行事はなるべくやってあげたいんですけども、密になるようなものはやはり難しいとか、要するに集まるということと移動するということがなかなか難しいので、この学校行事についてどう考えるか。それから、学校が休業になっていたときに、もちろん学校の教室の中での授業は行っていませんけれども、ICTを使ったりして、学びを止めない形でやってまいりました。あとは、個々の生徒の進路。例えば高3のお子さんであれば、受験もあるお子さんもいらっしゃると思いますので。それから学習の進度、進み具合ですね、この辺りをやはり見ながら、今後様々な形で、例えば補習なんかも含めて、あるいは夏休みの活用なんかも含めてやっていかなければならないと思っております。

H T V 分散登校をする際のことなんですけれども、やはり最終学年、例えば県立高校であれば高校3年生になりますが、そちらを優先して登校してもらおうというお考えはありますでしょうか。

教育長 はい、もちろん。文〔部〕科〔学〕省からの通知もありましたけれども、最終学年に関しましては、やはりその後が、最後ですので、そういった意味では優先して、例えば〔分散登校日を〕少し多めにするとかというようなことが考えられるかと思えます。ただ、2年生、1年生もその限りではありませんので、それは学校の実態に依じて、やはり目いっぱい学習の機会を確保するということは、必要かなと思っております。

H T V 例えば、分散登校をした際に、施設の規模の大きい・小さいということが、学校単位で出てくると思うんですけれども、そちらは、例えば施設がそんなに大きくない学校に関しては何か手当されるとか、そういったことは考えていらっしゃいますでしょうか。施設を、例えば仮のプレハブみたいなところを強化してあげるとか〔お考えですか〕。

教育長 そうですね、この辺りの分散〔登校〕の方法についても、初めの1週間で様子を見ていながら、どういう形でできるのかということ、学校にも考えていただいていますし、こちらからも、ある一定の指針は出していきたいなと思っております。まだ試運転の状況だと思っております、緊急事態宣言が解除されたからといって、全部野放しにやってしまうと、また更に感染が拡大してしまうということが考えられたり、あるいは生徒自身も、新たな学校での生活様式に慣れていないと思えます。今、各学校で来週の自主登校に向けて、例えば廊下を一方通行にするためにテープを貼ったり、あるいは座るところの、例えばベンチであれば、こことここに座りましょうということで、密を避けるような訓練を、私たちもしなければならぬと、ソーシャルディスタンスということで、思っております。その辺りの〔新たな学校での生活様式に〕子供たちも慣れてきて、先生たちも慣れてきて、それでどんな形の密を避ける取組がいいかなということ、各学校でシェアしてもらって、それでどういう形のことをするのがベストなのかを、子供にとって、この新型コロナウイルスによって、割を食わなかったということが大事だと思いますので。必ずそこは確保していきたいなと思っております。まずは1週間、〔様子を〕見させていただければと思います。

中国新聞 広島県に対する緊急事態宣言が解除された上で、休校は〔5月〕31日まで継続することなんですけれども、今一度、その理由を教えてください。

教育長 先ほども申し上げましたけれども、政府による緊急事態宣言が解除されたといっても、まだまだ十分に注意して、新しい生活様式の下で、3密を避けるとか、そういった形で生活していかななくてはならないと思っております。そういう意味では、子供の健康と安全を

第一に考えていまして、いきなり通常どおりという形ではなくて。ただ、子供たちの学習の機会〔の確保〕と、心と身体の問題が、ずっと家にいるということで、あると思います。なので、5月18日月曜日からの自主登校で、まずは児童生徒の様子を〔見て〕、どんな形でやるのがいいのか、あるいは新型コロナ〔ウイルスの感染リスク〕が心配なので出席させたくない〔という保護者〕とか、生徒自身も不安に思って出席したくないというお子さんがどれくらいいらっしゃるのかとか、この辺りを見つつ。あるいは感染拡大防止対策がどこまで学校として打てるのか、そこは徹底させた上で、やっていきたいと思っております。この間、文〔部〕科〔学〕省ですとか、国の動向、あるいは通知もいろいろ出てくると思っていますので、それと県内の感染状況を勘案しつつ、慎重に見ていきたいということで、初めの1週間は慣らし運転でお願いしたいということでございます。

N H K 先ほど言われたことの確認なんですけれども、6月1日から再開するかどうかの判断で、自主登校における感染予防対策、出席者の状況などを踏まえた上で、ということがあるんですけれども、それは学校でどれくらい対策ができていくかということと、〔感染リスクが〕怖いから行きたくないという家庭とかお子さんとかがどれくらいいるのかを見たと上で〔判断する〕、という理解でよろしいでしょうか。

教育長 そうですね。それとやはりそのときの国の動向と県内の感染状況ですね。それで敢えて自主登校と言わせていただいております。要するに「やりますよ」と言うと、嫌だけど行かなければいけない、と思われる方がどれくらいいらっしゃるのかということです。これはふたを開けてみないと分かりませんので。

N H K 先ほど学校行事の見直しのところで、人が密集することと移動は難しいのではないかとおっしゃったと思うんですけれども、思い浮かぶのが体育祭とか修学旅行とかと思うんですけれども、その辺りはどのようにお考えですか。

教育長 そうですね、これも今後の状況によると思います。今のところ、県外の移動も自粛しましょうということで、本日の本部員会議でも通知させていただきましたし。そうすると、修学旅行は高校では県内というのは考えられませんので、どうなのかということと、〔移動時の〕バスが密になっているのかいないのかとか、様々なことを考えてやっていかないといけないかなと思っております。あと、海外に修学旅行という学校も、高校の場合は少なくありませんので、そもそも行けるのかという、国外に出るのが望ましいのかということがあります。あと、体育祭もやり方を考えて、できるところをやるのか、それとも状況が良くなるまで延期するのか、様々な対策と考えているかと思えます。基本的に、感染リスクをゼロにしようと思ったら、家から一步も出ずにずっと家にいて、とにかく人との接触も抑えて、家族も〔家から〕一步も出ないということをしていかなければならないのですが、それが〔新型コロナウイルス感染症の影響が〕長期化するであろう中で、どこまでそういう生活様式が人間の生活として適しているかどうか。そこが、個人によってそれをするのが良いという方もいらっしゃるれば、そんなことはないという方もいて、これはもう生き方の問題であって、まちまちだと思います。

N H K 修学旅行とか体育祭とか行事について、何らかの指針を県教委が出すのか、それとも各学校の、人数が多い少ないということもあると思いますので、実情に任せて学校長判断にするのか。まだ決まっていないと思うんですけれども〔どうお考えですか〕。

教育長 新しい生活様式というものが国からも示されていますし、学校の中でのどのような生活様式がいいのかということ、いずれは県として〔指針を〕出したいなと思っております。おそらく国からもそのうち出ると思いますが、それも学校ごとに決めるの

N H K 夏休みについてなんですけれども、県立学校の中には既に短縮を検討している学校も多いということが昨日の文教委員会で出ていたと思うんですが、それも学校ごとに決めるの

ですか。

教 育 長 これまでも、高校の場合は補習をかなりやっております、お盆休み明けの前後1、2週間しか休みではなくて、あとは補習という学校もあります。大事なことはその中で、〔補習を〕やることが大事なのではなくて、時間を確保したからといって子供が到達しているかどうかは別の話で、やはりそれぞれのお子さんの今後の目指したい進路とこれまでやってきた学習の進捗があると、一人一人個別最適に見ていったときに、この子は毎日来たほうが良いとかこの子はこれくらいの形で良いかなとか、個別の〔計画が必要です〕。これまでも進路カルテというものは作ってきたんですけども、これに加えて、進路の学習とか、例えば弱いところを補うためにこうするとか、こういう進路を実現するために、例えば国語をここまでもっていくとか数学はここまでもってくるとか、そういうものを示していくということが各学校で大切なことと思っております。これまでもやってきているんですけども、やはり今年新型コロナ〔ウイルス〕があったからこそ、やはりそこは学校でやっていただくべく、考えていきたいと思っております。

中国新聞 2点。県教委としては現時点では、6月1日からの学校再開を目指しているということでのいいのかという確認と、学校を再開する際は、基本的にどの学校も分散登校をするという見通しなのかということをお教えください。

教 育 長 目指しているのはいつも目指しているんですけども。感染状況とか、やはり危ない中で登校させられないので、この辺りはいろいろな判断があるかなと思っております。学校再開をする際に分散登校をするかどうかは、その学校の実態によると思います。ありながらにして分散登校並みに密ではないという学校は、この限りではないと思っております。問題なのは、教室の数がそこまでない、それから先生もそこまで〔対応が〕できないという学校は、もしかしたら1日を半分に割ったり、あるいは曜日で割ったりする必要があるかなと思っております。要するに密にならなければ。あとは通学で電車とかバスとかで来るお子さんに関しては、ラッシュアワーを避ける時差登校ということも考えていかなければいけませんし、そこは学校の実態によるかなと思っております。